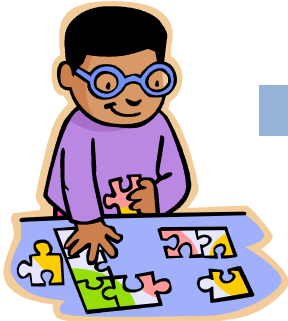


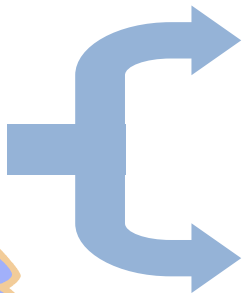


分ければ分かる

作業



パズルを作る



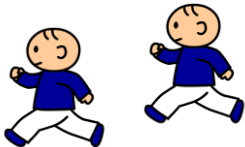
運動技能

椅子に座る (スタビライズ)
机と体の距離を整える (ポジションズ)
ピースを取る (リーチズ)(リフツ)
など

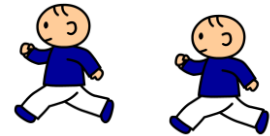
プロセス技能

適切なピースを選ぶ (チュージズ)
順序良く組み立てられる (シークエンシズ)
最後まで組み立てられる (ヒーズ)
など

動作分析の視点の紹介です。作業は、いろんな技能の集まりです。分けて考えれば、どこでつまづいているか実態がより見えてくるかもしれませんね。
(望月)



模倣って、大事！



模倣は全ての学習の基本です。模倣を充実させることは、主体的に学ぶための土台を築くことになります。

模倣を促すコツは？

☆コツ その1 「日常でしていることから始める」

支援者が動き出すと動き、止まるとなんとなく止まります。友達がみんな立つと立ち、友達みんなが座ると座ります。集団の中で促すと、より動きの頻度が増えます。

☆コツ その2 「物を持って、みんなの動きについていく」

パラバルーンやロープを持って、みんなで一斉に歩く、振るなどするほうが、何も手に持たない時よりも、体の動きが活性化します。手を離すことがあっても、何とかみんなの動きについていくことが増えます。

☆コツ その3 「道具を使って、支援者と一緒に動く」

跳び箱に上りジャンプする、S棒をまたぎ越すなどの活動は、道具があるので、支援者の見本や励ましが子どもにわかりやすく、それに応じて、自分なりに、その道具に合った動きをしようとするが増えます。

☆この次の模倣は？

- ① 静止や左右の違いを含む模倣 → ② 見える部位の模倣 → ③ イメージが関与した見えない部分の模倣 → ④ 表層模倣から相手の意図をイメージした意図模倣

このように見てみると、子どもたちは自分のできることから模倣していることがわかります。子どもが今できていることを大切に、少しの支援で活動のきっかけを作り、子どもが自主的に外界からの動きなどの情報を取り入れることができるようになってきたいですね。
(有本)